

ニューヨークで起きた主な出来事の本紙紙面から振り返る



2017 THE YEAR IN REVIEW 1~4月

1月

19日 前夜、市内で大規模な就任反対デモ開催

20日 トランプ政権発足

21日 就任に抗議し世界各地でウィメンズマーチ

マンハッタン区のデモには約40万人が、デモ関連の集会には約60万人が参加。ワシントンDCをはじめ全米での参加者は約500万人と米史上最大規模。日本を含む世界各地でも開催。



21日、グランドセントラル駅前のデモの様子 (photo: Rhododendrites)

1日 地下鉄2番街線が開通

9日 地下鉄全駅でWi-Fi利用可能に

17日 エリス、リバティ島観光客過去最高の450万人超
最高記録は2000年の435万人。2016年にNY市を訪れた人は6000万人以上。

19日 NY州司法長官、移民を守る法的ガイダンスを発表
NYのビル・デブラシオ市長も「市内に住む移民300万人を守り続ける」と宣言。

19日 麻薬王エル・チャポNY到着

メキシコの麻薬密売組織の最高幹部。米政府の要請で同日朝、米麻薬取締局 (DEA) の捜査官に引き渡され20日、ブルックリン区連邦裁判所に出席。

2月

9日 大雪で学校閉鎖、前日は記録的暖冬

NYとNJ州の3国際空港で1600便以上が、全米の空港で2800便以上が欠航。8日、気温が華氏62度 (摂氏17度) に達し、1965年の華氏61度 (摂氏16度) の記録を更新。

3月

6日 FDNYドローンを消火活動に史上初利用

8日 「女がいないとどうなる」市内で抗議デモ

国際女性デーのこの日、女性蔑視発言のトランプ氏に抗議し。金融街には「恐れを知らぬ少女」像が出現。



photo: 本紙

11日 バラNY州連邦検事が辞任勧告拒否で解任

政界汚職や金融街のインサイダー取引などを摘発、敏腕検事として知られた。疑惑を多数抱えるトランプ大統領が、追求を未然に防ぐために解任したとの憶測も。

19日 メトロカード値上げで低所得者直撃

初乗り運賃は据え置かれたが、30日間乗り放題が116.50から121ドルに、7日間乗り放題が31から32ドルに値上げ。この9年間で6回目となる値上げに市民からは怒りの声が噴出。

4月

9日 NY州公立大学の学費無料に

年収12万5000ドル (約1417万円) 以下の家庭が対象。規定の授業単位を履修し、一定の成績維持が条件。州は予算11億ドル (約1250億円) を計上。NY州の80%の家庭が対象になるとの見通し。

18日 エタン・パッツ君誘拐殺人事件、最大無期の実刑判決

1979年、ソーホーで当時6歳の男児が行方不明になった事件。ペドロ・ヘルナンデス元被告 (当時56) の弁護士は「精神障害者 (元被告) による作り話」と控訴を表明。事件を契機に保護者による子どもの監督方法や、失踪した子どもの捜査方法が大きく変わった。

27日 NYPDボディーカメラ装着開始

「警察が公開映像を編集できる」として市民から不安の声上がる。



2017年のキーワードその1 Hate Crime

分断進む米国、ヘイトクライム急増

トランプ大統領は就任7日後の1月27日、イランやイラク、リビアなどイスラム7カ国からの入国を禁止する大統領令を発令。全米で抗議運動が広がる中、NY市ではヘイトクライムが続発した。センター・フォー・スタディ・オブ・ヘイト・アンド・エクストリーミズムの調べによると、NY市のヘイトクライムは前年比24%増を記録。

主なヘイトクライム

1月27日 JFK空港でヒジャブを着用したデルタ航空女性従業員に対し、男が「トランプが大統領になった。お前らを追い出す」と脅し暴行。/**2月6日** 地下鉄C線で男が女性に向かって「醜いユダヤ人」とののしり、突き飛ばす。/**3月1日** ユダヤ教施設7カ所に爆破予告。同6日地下鉄J線でアフリカ系の男が「メキシコ人は自分の国へ帰れ」などとののしり、顔面を殴打。/**4月6日** 精肉店店主がアフリカ系従業員に輪状になった黄色い縄を渡し自殺しろとほめかす。このような縄は19世紀の米国で黒人を暴行する際に使用され、人種差別と迫害の象徴とされた。/**7月8日** ブルックリン区のユダヤ系コミュニティのアパート敷地内でナチスドイツのシンボルである鉤十字約30個が発見される。/**10月4日** 市内の企業や商店など9カ所に、差出人不明のいやがらせの手紙が届く。文面は鉤十字の下に、トランプ大統領のスローガン「米国をもう一度偉大な国に」が。/**12月2日** ユダヤ人介護施設に男が侵入「いまいましいユダヤ人、殺すぞ」と脅し入居者の男性に暴行。

1日 市営フェリー2路線が就航

ブルックリン区とマンハッタン区を結ぶ、ロッカウェー線とイーストリバー線。

3日 医療用大麻PTSD患者にも

がん、HIV、エイズ、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、パーキンソン病、ハンチントン病や慢性痛などに心的外傷後ストレス障害も加わった。



photo: Akihiko Hirata 本紙

4日 川久保玲の「問の技」 MET美術館で

日本人デザイナーとしては初の快挙。

18日 タイムズスクエアで車が歩道に突っ込み23人死傷

逮捕されたブロンクス区在住のリチャード・ロハス容疑者（26）は、事故前に大麻を使用。

31日 小山田さん和解金54万ドル

2013年2月にクイーンズ区で留学生の小山田亮さん＝当時（24）＝がNYPDのパトカーにはねられ死亡した事件で、遺族と市が和解。運転していた警官は赤色灯をつけサイレンを鳴らしていたと証言していたが、監視カメラには無灯火で無音走行するパトカーが映っていた。時速64マイル（約100キロメートル）以上で走っていたことも判明。遺族は、「裁判ではNYPDの責任を追求できないと痛感した」との声明を発表。

7日 賭博や囑託殺人、ロシア犯罪組織を一斉摘発

ブルックリン区で32人を逮捕。「連邦政府によるロシア系犯罪組織員の検挙はまれ。これほど多くの容疑者が一度に摘発されたのは初めて」とジュン・キム連邦検事局南部地区検事。

10日 マンハッタン区で新エリアコード332始まる

332は携帯電話番号にも使用。州では18番目のエリアコードとなる。

30日 病院にライフル男、犯人は現場で死亡

ブロンクス区のブロンクス＝レバノン・ホスピタル・センターで医師ら7人が撃たれ、1人が死亡し6人が重軽傷。犯人は同病院の元医師、ヘンリー・ベッコ（現場で自殺）。セクハラを理由に解雇されたことを恨んでの犯行とみられる。

10日 ペンステ「地獄の夏」始まる

アムトラックの補修工事で一部路線が間引き運行。通勤客約60万人に影響。

25日 地下鉄の遅れ6万7000回

MTAが5月の遅延の統計を発表。昨年の同時期比で33%増。2013年の同時期比で倍増。線路や信号などの機能不全による遅延は全体の25%。

25日 35カ国114人の移民逮捕、82人は過去に有罪判決

トランプ大統領就任から100日間で逮捕されたNY在住移民の数は昨年同時期の3万人から4万1300人と約40%増。米移民税関捜査局は逮捕者の75%は有罪判決を受けていると主張したが、多くは罪を犯していないとするデータも。

1日 製薬会社5社に医療用大麻専門薬局開店を許可**8日 プラザホテルでセクハラ日常化**

セクハラ行為を許容する「文化」が従業員の間にもまん延、経営陣は放置。

9日 たばこ13ドルに引き上げ

たばこを販売する店の数と、喫煙者削減目指し。ドラッグストアで販売禁止、紙巻きたばこ以外のたばこ商品には税金10%。税収は公共住宅の予算に充てられる。

13日 市内各地でシャーロットビル事件抗議集会

バージニア州シャーロットビルで12日起きた女性死亡事件へのトランプ大統領の白人至上主義者を擁護するような対応に抗議。コロンバスサークルやプロスペクトパークなどで開催され、数百人が集まる。

16日 南軍関連の銅像など次々撤去

シャーロットビル死亡事件を受けて、NY市でも人種差別を正当化する像や南部連合旗が追放に。

21日 38年ぶりの皆既日食

NY市から観測できたのは最大約70%の部分日食。自然の神秘がニューヨーカーを魅了。



photo: 本紙

5日 DACA廃止発表に抗議デモ、NY市で47人逮捕

DACA(親に連れられ16歳未満で米国に不法入国した若者を強制送還せずに、滞在資格を認めるプログラム)の打ち切りを発表したトランプ大統領への抗議デモ全米各地で。同プログラムの廃止により、NY市では約3万人が影響を受けるとされる。

12日 ヒラリー回顧録発売

2016年の大統領選挙の敗北を総括した回顧録「What Happened」発売記念サイン会をユニオンスクエアの書店バーンズ&ノープルで開催。ヒラリーファンが未明から数ブロックにわたり長蛇の列。



photo: Kato Asami 本紙

18日 フラッシングでバス衝突事故3人死亡

MTAのバスと旅行会社のバスが衝突し道路角にある飲食店に突入、歩行者1人、バス運転手2人とMTAバス乗客1人が死亡、16人が負傷。旅行会社のバス運転手は危険運転などで過去に2回事故を起こし、服役歴があった。

24日 9月の過去最高気温を記録

1959年の華氏89度を超える91度(摂氏33度)を記録、インディアンサマーとなった。記録的な暑さはジェット気流によるもので、例年より約20度も高かった。

25日 ウェイナー元下院議員 21カ月の実刑

同元議員は2016年1月ごろから15歳少女とわいせつ写真を交換しみだらな行為を要求。妻=後に離婚=がヒラリー・クリントン候補の側近だったため、大統領選も巻き込むスキャンダルに発展。2005、13年のNY市長選候補(民主)だった。

27日 教室で級友を刺殺、動機はいじめ

ブロンクス区の公立高校で18歳の男子生徒がナイフで15歳と16歳の男子生徒2人を刺し、1人死亡、1人重体。性的指向を巡るいじめが原因。11月29日、男子生徒は25万ドル(約280万円)を支払い釈放に。ゲイコミュニティの寄付金で全額賄われた。

10月

31日 ISシンパが暴走トラックテロ、8人死亡

ハドソン川沿いの自転車専用レーンを14ブロックにかけて暴走。ウズベキスタン出身の容疑者は米国内で急進化。FBIとNYPDのテロリスト捜査対象外だった。

11月

5日 NYCマラソン女子は40年ぶり米国人が制覇



女子は米国人選手フラナガン(2時間26分53秒)が、男子はカムウォロル(ケニア、2時間10分53秒)が優勝。

photo: 本紙

8日 デブラシオNY市長再選

得票率67%でニコル・マリオタキス州議会議員(共和)を下す。

16日 リベンジポルノ犯罪に

裸の写真や映像を本人の同意なく拡散し、経済的または身体的、精神的苦痛を与えたことが立証された場合、NY市では1年以下の禁固刑または1000ドル(約11万円)の罰金。

29日 HIV新感染者が減少と発表

市保健衛生局は2016年に新たにHIVと診断された患者数は15年より8.6%減の2279人と発表。減少傾向は男性の同性愛者グループに顕著。非感染者が事前に服用することで感染を予防する「暴露前予防投薬(PrEP)」の普及によるものと推定。

12月

4日 レイプ被害届が急増

NYPDが4日発表した犯罪統計月報によると市では11月、レイプの被害届の数が昨年同時期の96件から15%増の111件に。ハーベイ・ワインスタインから始まった一連のセクハラ報道がきっかけ。NYPDは「ワインスタイン効果」と。

5日 NYPD医師ぐるみで健康保険詐欺

NYPD勤務の外科医ら医師4人、会社管理職、マネーロンダリング担当など20人を逮捕。組織的な詐欺で詐取した金額は約1億4600万ドル(約164億円)に上る。

11日 通勤時の地下鉄通路で自爆テロ、3人負傷

ポート・オーソリティー・バス・ターミナル地下通路で。バングラデシュ出身のアカド・ウラー容疑者=当時(27)=は「クリスマスのポスターを見たとき、(体に巻いた爆弾を)爆発させようと思った。米軍がイスラム国(IS)を空爆しているのが許せなかった」と供述。



2017年のキーワードその2 Sexual Misconduct



セクハラ人名録

まだまだ続く...



ドナルド・トランプ(71)

第45代米国大統領
被害女性らの主張を「フェイク」と否定 ①ロジャー・エイルズ(77)
FOXニュースCEO
辞任(5月12日死去) ②ビル・オライリー(68)
FOXの人気番組「オライリー・ファクター」の司会者
降板 ③ハーベイ・ワインスタイン(65)
映画プロデューサー
自身の会社から解雇、映画芸術科学アカデミーから除名 ④ケビン・スペイシー(58)
俳優、映画監督、脚本家
主演映画とドラマを降板 ⑤ロイ・ムーア(70)
元アラバマ州最高裁判所主任判事。同州上院補選(12月12日)に出馬、敗北 ⑥アル・フランケン(66)
民主党上院議員辞任 ⑦チャーリー・ローズ(75)
ジャーナリスト
冠番組と朝番組から降板 ⑧グレン・スラッシュ(50)
ニューヨークタイムズ記者
停職 ⑨マット・ラウアー(59)
NBCニュースキャスター解雇 ⑩ジェームズ・レバイン(74)
メトロポリタン(MET)歌劇場名誉音楽監督・指揮者降板 ⑪ピーター・マーティンズ(71)
ニューヨーク・シティ・バレエ芸術総監督。スクール・オブ・アメリカン・バレエ学部長停職 ⑫マリオ・バタリー(57)
イタリア料理シェフ・レストラン
経営者冠番組から降板 ⑬



薬物汚染都市NY

NY市では薬物過剰摂取（オーバードーズ）が原因で7時間に1人が死亡している。市保健精神衛生局（DOH）が6月に発表した2016年の調査報告によると、同年のオーバードーズによる死者は1374人に上り、前年の937人と比べ46%増えている。市内5区の中で犠牲者が最も多かったのはブロンクス区で308人、ブルックリン区は297人だった。17年は、上半期だけでも711人がオーバードーズで死亡しており、このペースでいくと16年の死者数を超えると予

想される。また、市では殺人、自殺、交通事故による死者の総数よりオーバードーズによる死者数が上回っており、薬物汚染が、疫病レベルに広がっていることが分かる。

市は18会計年度（17年7月から18年6月）にオーバードーズによる死亡を予防する抗オピオイド薬のナロキソンやメサドン、ブプレノルフィンを使った治療についての啓蒙キャンペーンに予算430万ドル（約4.8億円）を投入、今後5年でオーバードーズによる死者35%減を目指す。

薬物関連の主な事件・事故

3月15日 JFK国際空港で輸送された犬用ケージの底部分から100万ドル（約1億1000万円）相当のヘロインを発見。

6月13日 大麻やコカインなど麻薬の「運び屋」をしていたNYPD女性警官を逮捕。「警察バッジを見れば捕まらない」と供述。

8月23日 スタテン島在住の29歳と58歳の親子が過去1年間にわたり、闇サイトのアルファベイで違法薬物取引。

9月20日 クイーンズ区で過去最多量となる合成オピオイド「フェンタニル」を押収。麻薬は合計98キログラムで、末端価格の合計は約3200万ドル（約35億6500万円）以上。

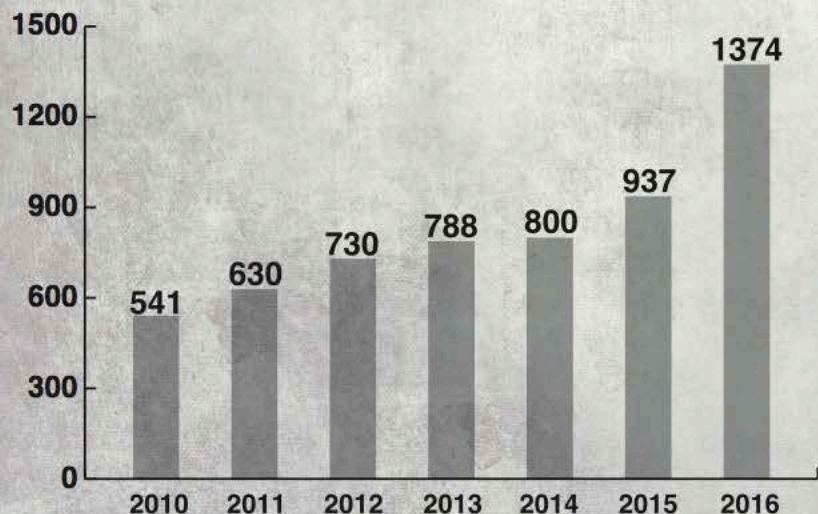
10月4日 ブロンクス区にあるマクドナルドのマネージャーが店内で、コカインをチーズバーガーやフライドポテトのセットに忍ばせて販売。

10月29日 ブルックリン区で家族と誕生日を祝っていた父と息子がオピオイド系鎮痛薬を過剰摂取し死亡。

11月11日 スタテン島在住の夫婦がオーバードーズになり救助される。妻は救急隊員が夫の救命活動を行っている間トイレに隠れてヘロインを使用し意識不明に。

12月2日、3日 ブロンクス区で幼児2人がヘロインを誤飲、病院に搬送。2人は呼吸困難やけいれんを起こし危険な状態だったが、命に別状はなかった。

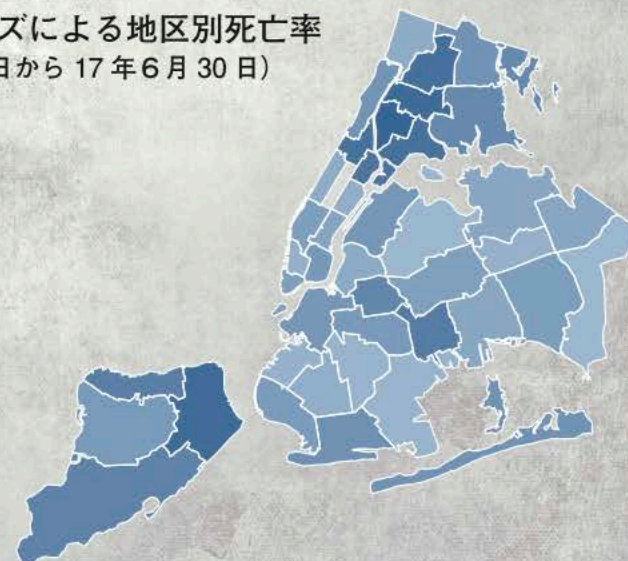
2010年から16年のオーバードーズによる死者数



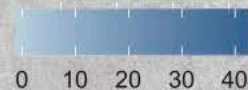
www1.nyc.gov

市では2010年以降、オーバードーズによる死者が増加傾向にあり、16年に急増していた

オーバードーズによる地区別死亡率
(2016年7月1日から17年6月30日)



Rate of Unintentional Drug Poisoning (Overdose) Death, Per 100,000 Residents, July 1, 2016 – June 30, 2017
www1.nyc.gov



ブロンクス区とスタテン島が突出している